

地域リハビリテーション活動支援事業のご案内

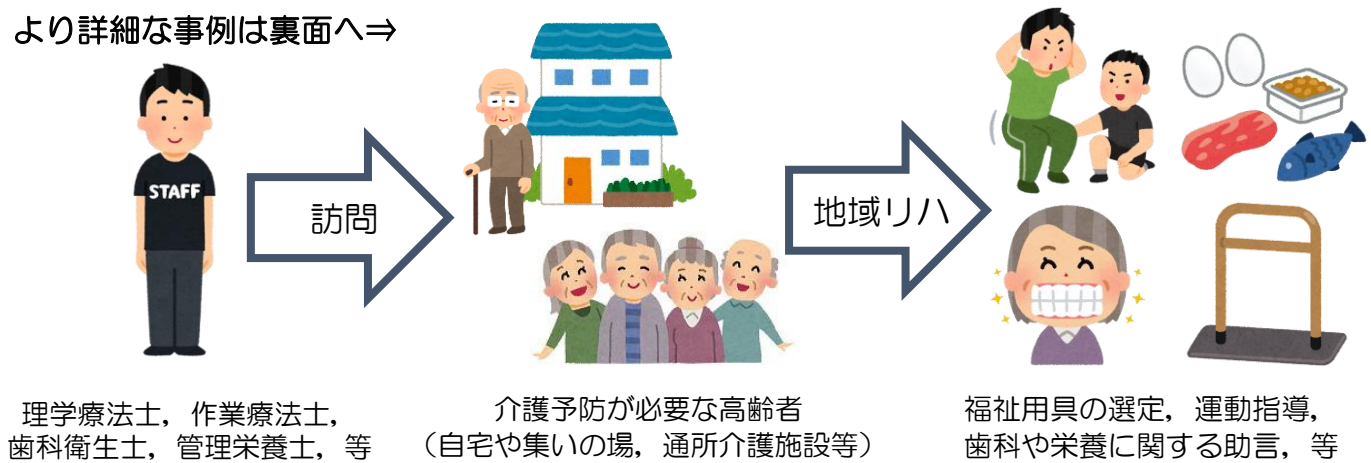
地域リハビリテーション活動支援事業とは…

リハビリテーション専門職等が、ご自宅や集いの場、デイサービス等、**普段活動している場所**を訪問し、生活や能力を評価して、日常生活動作や栄養・口腔機能に関するアドバイス等を行います。また、担当者会議での助言を行うことで、その方が**可能な限り住み慣れた環境で生活できるよう**サポートいたします。

〔例えば〕

- ・体調が悪くなって介護保険を申請したが、認定までに時間がかかり、自宅での動作が難しくなってきた。自宅で転倒しないか心配。
 - ・外出頻度が減ったことで食欲がなくなり、体重が減ってきた。一度に食べられる量が減って心配。
 - ・口が乾燥してご飯が食べづらい。食べるときに咳もでて、楽しみだった友人との食事も行けない。
- などのご相談に対応させていただきます。

より詳細な事例は裏面へ⇒



〔利用方法〕

- ◆対象者は，市内の**65歳以上の高齢者**です。
- ◆料金は**無料**です。
- ◆利用については，**うきは市役所保健課**にご連絡下さい（下記）。
- ◆**原則1回**のみの利用となります。
- ◆運動・栄養・歯科指導の提供をする場合は，**かかりつけ医やかかりつけ歯科医と連絡**させていただくことがあります。
- ◆現在，他施設でリハビリや生活の指導を受けている方は，まずはその先生にご相談ください。

お問い合わせ

うきは市役所 保健課 介護・高齢者支援係
電話：0943-75-4105



実際にはこのような例があります。

理学療法士に関する相談例

相談

自宅の浴槽は深く、またぐ動作が難しくなってきた。デイサービスには行きたくないため、自宅の浴槽で安全に入れるようにアドバイスが欲しい。

対応

浴槽台やバスグリップの提案をし、またぎ動作を容易に行えるよう、筋力トレーニング方法について伝えた。

結果

環境が整うことで、入浴時の転倒のリスクが減少した。また、またぎに必要な筋トレを行うことで、動作が簡単になってきた。

管理栄養士に関する相談例

相談

最近、食欲がなく作るのもおっくうで、朝食を欠食するようになり体重が減ってきた。これ以上体重が減らないようにしたい。

対応

欠食するリスクを説明し、手軽に入手できる食材でできる献立や、1度に食べられないときは間食を活用する方法を伝えた。

結果

惣菜を上手く活用し、少しずつ食事量が増え、体重も戻った。また、食欲がない時は間食を取り入れ自分で食事量を調整できるようになった。

歯科衛生士に関する相談例

相談

食事の時に口からこぼれることが多く、むせや咳きが見られることがよくある。家族や友人との会食が楽しみだったが、そのことが気がかりで参加できていない。

対応

お口の機能の低下があるので、日頃の食事姿勢に気をつけて、首肩・口唇・舌・口の体操や、発声訓練を食事前に行うように指導した。

結果

自分のお口の状態を認識し、体操に取り組んだことで口や舌の動きがよくなった。飲み込みや会話もスムーズになり食事意欲や元気が出てきた。